

防災対応、産業復興を視察調査

常任委員会、宮城県大郷町、利府町、仙台市などを視察



宮城県大郷町役場前

総務文教常任委員会及び産業厚生常任委員会では、5月14日から16日の日程で、宮城県大郷町、利府町、仙台市、石巻市、南三陸町などにおいて、所管事務調査の視察を行い、結果内容について、第5回定例会で次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会 調査報告

被災後の防災対応について

【大郷町】

大郷町は宮城県のほぼ中央に位置し、仙台圏域の中で一番自然が残っている地域である。明治34年に宮城県旧大松沢村（現大郷町）から115人が本町松沢地区に入植以来、10年以上経過した現在も交流が続いており、大郷町が東日本大震災で被災したことを受け、昨年10月に本町と大郷町は災害時相互援助に関する協

定を締結している。

地域防災計画の見直しは、平成22年度に終了予定だったが、震災のため中断し、本年、策定予定を進められている。冬期間の災害を想定し、ストーブ等をレンタル業者と供給協定を締結するなど今後の災害に備えようとしている。備蓄計画は、防災倉庫6箇所を設置し、アルファ米・クラッカー・飲料水等を備蓄

している。要援護者の支援については、災害時要援護者避難支援計画を平成22年度に策定しており、また、災害時における要援護者の緊急受入れの協力に関する協定も介護保険施設13施設と締結している。防災情報の伝達方法として、防災行政無線は、屋外子局5基及び戸別受信機を全世帯に設置し、更に災害情報連絡員として地区担当員44名を配置し情報の収集伝達を行っている。東日本大震災の被害は、海岸線の自治体と



被災地視察：門脇小学校

比較すると被害規模は小さいが、町の災害時の対応は、従来より災害時のマニュアル等も整備され、非常時の対応は進んでおり、自助、共助、公助の役割分担も共通認識されていると感じた。本町も早急に防災計画の見直しを図り、有事に対応できるように全町あげて取り組むべきと痛感した。

【北海道芸術高等学校 仙台キャンパス】
北海道芸術高等学校十勝清水本校は、年に一度1週間スクーリングに集まる学校として